

市民協働事業 相互評価シート

1 市民協働事業の概要

事業名称	横浜市市民協働推進センター運営事業	
事業の実施者	団体等	市民セクターよこはま
	行政	横浜市行財政局共創推進課（以下、「共創推進課」という）
事業の目的	市民等と行政の協働に基づき、地域における様々な課題の解決や新しい取組を創発するために、様々な主体の交流・連携が生まれる対話と創造の場として、以下に掲げる事業を展開し、市内における「協働」の取組を推進すること	
事業の内容	ア 総合相談事業 イ 情報の蓄積・活用・発信事業 ウ 人材育成事業 エ 交流促進事業 オ 市民活動支援事業 カ 各区市民活動支援センター連携・支援事業 キ 管理運営に関すること	
役割及び責任 分担等	別紙参照	
実施期間	令和7年4月1日から令和8年3月31日	

記入日	2026 年 6 月 30 日
記入者	[団体等] ・団体等名： 市民セクターよこはま ・記入責任者 氏 名： センター長 韓 昌熹 連絡先： 045-671-4732
	[行政] ・部署名： 行財政局共創・ファシリティマネジメント推進室共創推進課 ・記入責任者 氏 名： 市民協働推進担当課長 宮島 大輔 連絡先： 045-671-4734

【別紙】役割及び責任分担等

事業項目	受託者の役割	委託者の役割
総合相談事業	1 相談・提案受付業務 2 相談・提案内容に対する方向性の協議 3 相談・提案内容の具体化検討 4 コーディネート・実現に向けた支援 5 市民協働提案の受付・支援	1 相談・提案内容に対する方向性の協議 2 行政所管関係部署との調整・コーディネート
情報の蓄積・活用・発信事業	1 事例等の収集・蓄積 2 相談・事業への活用 3 広報媒体を用いた情報発信	1 行政独自の情報網を活用した情報収集 2 横浜市が保有する広報媒体の提供支援
人材育成事業	1 市民協働・市民活動の担い手育成 2 協働に関わる人材の育成	1 新たな市民協働・市民活動の担い手育成に向けた事業開催等支援 2 協働に関わる人材の育成に向けた事業開催等支援
交流促進事業	1 中間支援組織との連携とネットワークの強化 2 新たなネットワークの形成 3 新たな手法の創出	1 中間支援組織との連携とネットワークの強化に向けた支援 2 新たなネットワークの形成支援 3 新たな手法の創出に向けた事業開催等支援
市民活動支援事業	1 相談対応 2 組織基盤整備の支援	1 各種講座等開催に向けた支援
各区市民活動支援センター連携・支援事業	1 日常的な運営支援 2 研修会・情報交換会の開催支援 3 各区市民活動支援センターとの情報共有及び連携	1 研修会・情報交換会の開催 2 各種情報共有
管理運営に関すること	1 日常的な設備管理 2 市民利用への対応 3 NPO 法人認証業務の受付補助 4 団体登録要件、利用ルール等の策定のための協議	1 庁舎管理上必要な設備管理 2 法令に定めのある NPO 認証に関わる業務全般 3 団体登録要件、利用ルール等の協議及び策定、運用
その他運営に関して必要となる事務事業	1 事業計画書、及び事業報告書等の作成 2 市庁舎低層部運営会議への参加 3 市庁舎低層部の運営に関わる各事業者との連携 4 アトリウムとの一体利用に関する調整 5 来庁者への簡易な館内案内等	1 市庁舎低層部運営会議への参加 2 市庁舎低層部の運営に関わる各事業者との連携 3 アトリウムとの一体利用に関する調整 4 来庁者への簡易な館内案内等

2 事業実施プロセス相互チェックシート

このチェックシートは、事業実施に伴う、それぞれの段階で、必要なことができたかどうか、相互にチェックをおこなうシートです。相互の視点からチェックを行い、その後、「2 事業評価相互検証シート」で総合的な評価検証をおこないます。

◎相互チェックシートの評価基準

よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	まったくできなかった
A	B	C	D

①事業計画段階

		団体等	行政
1	自分たちが達成すべき大きな目的やミッションについてよく話し合うことができましたか。	A	A
2	お互いの立場や組織の違いを話し合ってよく理解することができましたか。	A	A
3	ニーズを把握して共有するとともに、この事業の目標と実施方法を話し合って決めることができましたか。	B	B
4	実現のためにそれぞれが何をできるかを考え、話し合っ役割分担を決めることができましたか。	A	A
5	会計のルール等、お互いの組織内部の取り決めについて、説明し合っよく理解することができましたか。	B	B
6	事業を始めることや計画中であることを、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	A	A

②事業実施段階

		団体等	行政
1	率直な意見交換のもとに、お互い対等な立場で事業をすすめることができましたか。	A	A
2	お互いの強みや得意分野を、どう生かし合えるかを考え、提案しながら取り組むことができましたか。	A	A
3	相手に任せっきりにせず、お互いが役割を自覚して積極的に取り組むことができましたか。	B	B
4	事業の進捗に応じて、目標、ニーズ、対象、実施方法などをふりかえり、修正しながら取り組むことができましたか。	A	B
5	必要に応じ、関連する他の部署や団体などを巻き込みながら事業をすすめることができましたか。	A	A
6	事業終了後の見通しについて、話しながら取り組むことができましたか。	B	B
7	事業の進捗状況を、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	A	A

③ふりかえり段階

		団体等	行政
1	協働することで、単独でおこなうのに比べてどのような効果が得られたか、話し合っ共有できたか。	B	B
2	受益者が満足を得られたかどうかについて、話し合っ確認することができたか。	A	A
3	これまでも振り返って、お互いの考えに相違点がなかったかについて話し合い、確認する事ができたか。	B	B
4	期待された事業成果を得られることができたか。	A	B

3 事業評価相互検証シート

事業実施プロセス相互チェックシートでおこなった結果をもとに、相互で本検証シートを作成します。

事業の計画づくり (協働して事業計画をつくるにあたり、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)
【共有できたことや認識に違いがあったこと】 ・2025年度の事業構成や方針について共有でき、既存事業を目的に沿って再整理した新たな構成で事業計画を策定できた。 ・各講座やセミナーを年度当初の企画段階から共有できたことで、先の見通しをある程度立てながら着手することができた。
【今後改善が必要と思われること】 ・行政と団体それぞれの役割や責任分担について、改めて認識をすり合わせ、明確に文書化することが必要である。 ・事業の企画段階で目的やターゲット、想定する成果までの見通しを対等な立場で協議した上で設定し、双方で合意の上、事業を進めていく必要がある。
事業実施 (協働して事業を実施した結果、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)
【共有できたことや認識に違いがあったこと】 ・実務担当同士でタイムリーな情報共有を行い、円滑な事業推進ができた。 ・毎月、横浜市市民協働推進センター2025年度事業 KPI&KGI の進捗状況を共有できた。 ・相互に年間目標を定期的に確認しながら、各事業の進捗を把握し、適宜相談しながら進めることができた。
【今後改善が必要と思われること】 ・事業進捗について緊密な打ち合わせができているのは良いが、頻度が高くなる傾向があり、実施回数 の適正化を図る必要がある。 ・各事業について、疑問点や懸念点は適宜共有し、互いに協力し、柔軟な対応をすることで、よりスムーズな事業進捗が図られることが望ましい。
事業の成果 (協働して事業を実施した結果、当初期待された事業効果がどのような成果となりましたか。)
・人材育成事業を横浜市職員の協働研修に位置づけ、学びの場で市民と行政職員との意見交換や交流が生まれ、関係性構築のきっかけにつながった。 ・協働のまちづくりやソーシャルビジネス、社会課題を解決する手法を学ぶワークショップなど、社会課題や地域課題を解決するための事例や取組、実践的な手法を学び、体験する講座を開催し、市民協働の推進に寄与できた。
自由記入欄
・機構改革に伴う協働推進の方向性やセンター事業の位置づけ、今後の展開を含めた綿密な議論をしていきたい。 ・複雑化・多様化する社会課題・地域課題の解決に向け、協働という手法により、市民協働推進センターとしてどのように取り組むことができるか、相互に対等な立場で協議を重ね、今後の事業について取り組んでいきたい。